

2022年度自己評価書

学校法人藤学園 藤女子中学校・高等学校

1. 教育の目標	カトリックの精神に基づき、教育と研究を通して広い知識と豊かな心を備え、将来家庭・社会を担って行く女性を育成し、且つ国際的視野を持つ教養ある人間を育成する。
2. 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりと温かい心を持ち、明るく素直に人と接する心を育てる。 ・自ら考えて自主的に行動し、自分の言動に責任を持つ力を育てる。 ・自分の持つ特性や能力を知り、それを十分に伸ばすことのできる力を育てる。 ・国際的な視野を育て、世界の中の一員としての意識を育てる。 <p>「ひとりひとりの咲くべき花を咲かせよう ～ うつしく やさしく しなやかに ～」</p>
3. 評価方法	評価方法は次の4段階である。A:大変よくしている B:よくしている C:あまりしていない D:まったくしていない

4. 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成度	改善の方策
建学の精神	キリスト教(カトリック)の教育観、(人知を超えたものへの畏敬の念を持ち、人間としての愛の心や真の心の豊かさを身につけること)を理解しているか。	B+	職員朝礼や職員会議などで行っている教職員の祈りを継続して深めていく。また「今日の藤」に聖書の言葉と解説を週替わりで掲示し、毎週読み上げながら教職員全体が聖書に親しめるように行ってきた。今後も全教職員が生徒の手本となるべく、建学の精神を日々生き、生徒を愛し、生徒のありのままを認め受け入れ寄り添う姿勢とを促す。また、教職員研修を充実させ、「隣人とは」を問い続け、教職員と生徒が平和を実現できるよう導く。
	建学の精神、(キリスト教の愛の精神に基づき、広い知識と豊かな心をもって、家庭や社会を担う女性を育てる)を理解しているか。	B+	
	校訓である謙遜(あるがままの自分を直視し、長所も欠点も素直な心で認め励むこと)を理解しているか。	B+	
	校訓である忠実、すなわち家庭、学校、社会に対する自分の務めを責任もって果たすこと、を理解しているか。	A	
	校訓である潔白(身も心も清らかで正しく、良心に従って生きること)を理解しているか。	B+	
学習指導	毎回の授業を充実させ、生徒一人ひとりの学習意欲向上に向けた努力をしているか。	B+	生徒の基礎基本の着実な定着と向上、能動的な学習姿勢を育むため、レベル選択型授業(AMS)の有効性の検証をすすめ、積極的な改善をはかり、生徒個々の学力に対応した授業を実践する。教職員のICT技術のさらなる向上を目指し、教職員間での情報交換や研修をおこない、生徒個々に最適化された教育への対応をさらに推進する。
	生徒からの授業アンケートの結果を授業改善のためにいかしているか。	B+	
	生徒一人ひとりの家庭学習の状況を把握しているか。	B	
	努力した生徒に対し適切な声かけをしているか。	A	
	努力の足りない生徒に適切な声かけをしているか。	B	
	授業開始のチャイムで授業を始めているか。	A+	
休暇やその他の理由で学校を離れるとき、時間割変更や学習内容の適切な指示で自習とやらぬよう努めているか。	A+	生徒面談や学習手帳を通して、生徒の家庭学習の状況を積極的に把握し、学習習慣の定着と基礎基本の着実な習得を図れる指導体制・方法・施策を準備する。	
生徒指導	生徒心得の内容とそれを守ることの意義を自ら理解し、生徒に理解できるよう折に触れ話しているか。	B	SNS等によるトラブルやネット上のリスク・マナーについて、保護者には入学前に、生徒には入学直後のオリエンテーション時に、冊子を配布し丁寧に指導し、生徒が自らの問題として捉えることができるよう、保護者の協力を得ながら指導を行う。
	身だしなみを整えることの意義を理解し、自ら模範となり、折に触れ生徒に伝えているか。	B	
	挨拶をする、時間を守る、話を集中して聴く、自分の言葉で話す、周囲を思いやるなど、良好な人間関係を築くために必要な社会性を身につけられるよう導いているか。	B+	
	生徒の個人的な状況(家庭環境・友人関係・既往症・悩みなど)を知っているか。	B	
	生徒心得が守られていない生徒に、必要な声かけを行っているか。	B	
	生徒指導上の問題が起こった時、適切な人・学年・分掌に相談・報告し、連携して解決に努めているか。	A	
	個々の保護者と良好な関係にあり、特に生徒指導面において連携ができていくか。	B	
	生徒指導上の問題で生徒と向き合う時、一人の人格として受け入れ、どのようにすべきか気付くよう愛情と根気をもって指導しているか。	A	
職場環境	職員同士の挨拶や声かけなどを通して明るく気持ちのよい環境づくりに努めているか。	A	教務支援システムBLENDやClassroom、Googleformsなどを有効活用し、情報共有やペーパーレス化とゴミの減量を継続する。教職員相互が気持ちよく過ごせる職場の環境づくりに努める。教職員間でコミュニケーションをとりながら、学校改善や課題解決について知恵を出し合う会議の在り方を工夫をする。
	職員室・印刷室・休憩室など共有の場で、互いが気持ちよく過ごせるよう配慮しているか。	A+	
	コピー機、印刷機、コンピューター、冷蔵庫など共有の設備を、互いが気持ちよく使えるよう配慮して使用しているか。	A+	
	節電・節水・紙の節約・ゴミの分別など地球環境を考えた生活をしているか。	A	

5. 総合的な評価結果

総合評価	今後の方策
B+	<p>新型コロナウイルス感染症による制限が少しずつ緩和されてきたなかで、生徒・教職員の工夫により、多くの学校行事でオンラインと対面を組み合わせで改良・改善が加えられ充実した活動を実施することができた。</p> <p>生徒募集では、オープンキャンパスや学年別学習会を開催し、ボランティア生徒の丁寧な振る舞いもあり、来校者の満足度が高いイベントを実施することができた。今後は2025年度の高校入試導入に向けて、魅力ある学校づくりを教職員全体で議論を深めるとともに、創立100周年を迎える「伝統あるカトリック中高一貫女子校」として、6か年教育の充実と魅力の向上を図る。</p>